

施策マネジメントシート(平成26年度の振り返り、総括)

作成日 平成 27 年 7 月 9 日

基本目標	II	豊かな自然と共生するまち	主管課	名称	総合政策課
				課長	増田 和也
施策	14	公共交通の利便性の向上	関係課	総務課(新治支所)、地域整備課(都市計画)	

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
	①町民		①公共交通を使って、日常生活で便利に移動ができる。	1 公共交通の確保	町民
2 公共交通の利便性の確保				町民	公共交通を便利に利用できる。
3					
4					
5					

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	A	日常的に公共交通を利用している町民の割合	%	実績値 目標値	8.6 8.8	8.6 8.8	8.3 8.9	9.6 9.1	9.2	9.2
B	路線バス利用者数	千人	実績値 目標値	223 220	223 220	245 220	251 220	220	210	200
C	鉄道利用者数(在来線/新幹線)	人	実績値 目標値	1,363/727 1,300/740	1,378/761	1,369 / 767 1,260/752	1,280 / 816 1,220/764	1,180/776	1,140/788	1,100/800
D			実績値 目標値							
E			実績値 目標値							
F			実績値 目標値							

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 公共交通が便利になれば、利用者数が増加すると考えられるため成果指標とした。
町民アンケートにより把握
※あなたはどの程度、町内の公共交通(バス・電車など)を利用していますか。→「ほぼ毎日」、「週に1日以上」、「月に1日以上」と回答した人の割合

B) 公共交通が便利になれば、利用者数が増加すると考えられるため成果指標とした。
水上線及び猿ヶ京線の年度延べ人数 路線バス会社への聞き取りによる

C) 公共交通が便利になれば、利用者数が増加すると考えられるため成果指標とした。
JR東日本のデータによる(HPより) 在来線は、後閑駅・水上駅の1日平均値の合計 新幹線は、上毛高原駅の1日平均値

目標値設定の考え方

A) 成り行きでは、過去の経緯から毎年度10%程度減少すると予想される。公共交通の利用者の絶対数を減少させないようにすることを目標としながら人口減少を勘案し、平成29年度9.2%をめざす。

B) 日常的に公共交通を利用している町民の割合との相関関係が強く、同様に毎年度10%程度減少すると予測される。現状の水準を維持したいが、利用者絶対数(特に学生)が減少することを考慮し、平成29年度200千人を目指す。

C) 在来線の利用者数は今後も減少傾向にあると想定され、毎年度5%ずつ減少すると設定した。新幹線の利用者数は過去の推移から短期的には大幅な減少はないと設定したが、北陸新幹線が平成26年に全線開通することに伴い、上越新幹線の便数減少が懸念される。現段階では、どちらも成り行きに対して平成29年度の利用者数を10%伸ばすことを目標とする。平成27年3月に北陸新幹線が全線開通したが、上毛高原駅に停車する本数の変更はなく、目標値はこのままとする。

施策のための目的・目標達成	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①公共交通の重要性を認識し、できるだけ利用する。 ②事業者は、公共交通サービスの向上に努める。 ③地域住民は、公共交通の必要性を意思表示する。	①機能性と快適性を兼ね備えた駅の周辺整備を推進する。 ②利用しやすい公共交通ネットワークを構築するために、各機関の連携に必要な調整を行う。 ③現行路線維持のための利用促進を行うとともに生活公共交通の確保に努める。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①高齢化が進むと、自ら運転して移動しない人が増加すると考えられ、公共交通は重要となる。 ②人口減少により、公共交通利用者数の減少が見込まれる。 ③学生の減少とともに、学生の路線バスの利用が減少する可能性がある。 ④県は、赤字路線に対する補助制度の見直しを検討しているため、注視していく必要がある。 ⑤路線バスの利用者は増加しているものの、路線バス会社の収益が悪化している。現行の運行本数や路線等の縮小、あるいは路線廃止または委託路線となる可能性がある。	①自家用有償バス運行路線地域住民から、交通弱者対策のためにも、自家用有償バス運行継続の声がある。 ②町民アンケートによると、公共交通に対する不便の具体的内容は、I.本数が少ない=75.3%、II.運賃が高い=40.0%、III.バス停や駅が遠い=30.4%となっている(順位は変わらず)。また、「高齢者の足の確保」「バスカードの購入場所の増設」「タクシーが足りない」などの声がある。

施策	14	公共交通の利便性の向上	主管課	名称	総合政策課
				課長	増田 和也

実績比較		背景・要因
① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。	<p>① 日常的に公共交通を利用している人の割合は、平成23・24年度は8.6%、25年度は8.3%と若干減少したものの、26年度は9.6%と増加した。</p> <p>② 路線バス利用者数は、平成21年度273.3千人、22年度237.5千人、23年度223.3千人と年々減少傾向であったが、24年度223.4千人、25年度244.7千人、26年度は250.9千人と増加傾向である。</p> <p>③ 在来線の1日平均駅乗車人数は、平成23年度1,363人、24年度1,378人と増加し、25年度は1,369人と僅かに減少した。26年度は1,280人と89人減少した。</p> <p>④ 新幹線の1日平均駅乗車人数は、24年度761人、25年度767人、26年度は816人と増加傾向である。※路線バス利用者はみなかみバスカードの販売開始により増加している。在来線については通学者は減少していると思われるが、町内を訪れる観光客数は増加していることから観光客の利用が増加していると推測する。新幹線についても観光客の利用増によるものと思われる。</p> <p>※公共交通に不便を感じている町民の割合は、平成23年度49.9%、24年度46.4%、25年度は46.2%と減少していたが、26年度は48.3%と増加した。不便の内容の時系列比較は、「本数が少ない」は平成23年度78.0%、24年度76.1%、25年度73.7%と減少傾向であったが、26年度は75.3%と若干増加した。「運賃が高い」は平成23年度47.3%、24年度40.5%、25年度33.6%と減少していたが、26年度は40.0%と増加した。また「バス停や駅が遠い」は平成23年度30.3%、24年度35.9%、25年度は30.4%と減少傾向であったが、26年度は34.3%と対前年3.9ポイント増加した。</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。	
	<input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態)	
② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。	<p>① 新幹線1駅、在来線5駅、高速道路インターチェンジ2つと、近隣市町村と比べて格段に多く、利便性が高いといえる。</p> <p>② バスの路線数は2路線あるが、1路線あたりの運行本数は少ない。しかしながらバス路線については県内でも事業者による数少ない自主運行路線である。また、在来線は、1時間に1本程度の運行である。</p> <p>③ 平成26年度、近隣市町村にある駅の1日平均の利用者数は、沼田駅が1,863人(沼田市人口49,116人)、中之条駅が937人(中之条町人口17,097人)となっており、みなかみ町は在来線(後閑駅+水上駅)1,280人+新幹線816人となっており、人口に対する駅の利用者数は少なくはない。※人口はH26.10.1移動人口調査による。</p> <p>④ 駅乗車人数の前年度比率は、後閑駅92.6%、水上駅95.4%、沼田駅95.0%、中之条駅95.0%と減少している。</p> <p>⑤ 県内の路線バスの多くは自治体の委託路線であるが、本町のバス路線は県内でも数少ない自主運行路線である。</p> <p>⑥ 近隣市町村の平成25年4月1日(対前年比)の保有自動車台数は、群馬県1,752,083台(100.8%)、沼田市47,564台(100.1%)、片品村5,767台(98.9%)、川場村3,510台(99.8%)、昭和村9,051台(100.5%)、みなかみ町19,850台(99.9%)となっており、世帯数に比べると利根沼田地区は県平均に比べかなり高い割合である。(H25群馬県統計年鑑)</p> <p>一世帯あたりの保有台数は、群馬県2.3台(755,756世帯)、沼田市2.5台(19,148世帯)、片品村3.4台(1,677世帯)、川場村3.6(974世帯)、昭和村3.7台(2,429世帯)、みなかみ町2.5(7,864世帯)となっている。</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。	
	<input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。	
③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。	<p>① 日常的に公共交通を利用している町民の割合は9.6%で前年に比べ1.3ポイント増加し、目標を上回っている。しかしながら、通学利用の学生はアンケート対象となっていないため、アンケート結果には反映されていない。</p> <p>② 平成26年度の路線バス利用者数は約6千人増加し、目標値220千人に対し31千人上回った。みなかみバスカードの販売を平成24年度から開始し、利便性が認識されたことが影響していると思われる。</p> <p>③ 鉄道利用者数については、在来線及び新幹線ともに目標値を上回っている。在来線の乗客数が減少したのは、通学に利用する高校生年代の減少が要因と考えられる。新幹線については、来訪する観光客数が増加していることから、観光等を目的に鉄路で来訪する観光客が増加したことが要因として推測される。</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。	
	<input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。	
成果実績に対する取り組みの総括	<input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。	<p>① 事業者が運行する町内バス路線で使用できる「みなかみバスカード」の販売を平成24年度から開始し、引き続き継続している。26年度の販売実績は4,789枚(対前年比116.0%)であった。運賃補助にあたるこの事業は全国でもめずらしい事業である。</p> <p>② 平成25年度のバス停改修に伴い、旅行者にも利用しやすいように停留所マップを作成したが、本年度、北陸新幹線開通に伴う路線バス時刻表改定のためマップを更新した。</p> <p>③ 平成25年度に猿ヶ京線は一便増やし、最終バスを19時台にした結果、利用者が増加した。また、民間バス事業者との協議により、外国人観光客向け及びその他の観光客向けに周遊チケットの販売を開始した。</p> <p>④ 後閑駅前駐車場(コインパーキング)の利用は、平成24年度は年間13,122台、25年度12,350台であったが、26年度は11,697台と減少した。</p> <p>⑤ 上毛高原駅周辺整備の一環として、駅と観光センターの利便性を向上させるため駅前広場を有料コインパーキングとして整備し、12月26日から運用を開始した。利用台数は7,690台であった。</p> <p>⑥ 公共交通会議を6月に開催し、市町村運営有償運送の登録更新と赤沢スキー場を経由する路線変更を協議・決定した。</p> <p>⑦ 猿ヶ京バス停に夜間照明を設置した。</p> <p>⑧ 国土交通省高崎河川国道事務所長へ月夜野情報ターミナル・パーク&ライド駐車場の拡張要望を提出した。</p>
	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	
	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	

今後の課題と取り組み方針(案)	基本事業名	今後の課題	平成28年度の取り組み方針(案)
	3	1 公共交通の確保	町内のバス路線は、利用者が減少すれば将来的に廃止等も考えられる。廃止等を回避するために利用者の減少を食い止める必要がある。みなかみバスカードの販売により平成24年度より利用者は増加に転じたが、今後は学生数の減少が見込まれることから将来の見通しは甘くない。今後も事業者との協力のもと、観光客の利用者を増やすなどして、バス路線の確保が必要である。
2 公共交通の利便性の確保		鉄道と路線バスの接続は事業者の運行計画により、ある程度確保されているが、鉄道、路線バス共に一時間に一本程度と本数が少ない。今までの経緯もあるため増便してもらうことはなかなか難しいと考えるが、利用者を増やす利用しやすい工夫を今後も行っていかねばならない。	バス路線については、利用者の声などを事業者に投げかけながら、事業者と協力し、利便性の確保に取り組む。 自家用有償バス事業(猿ヶ京法師間)については、運行継続の検討に取り組む。
3			

14 公共交通の利便性の向上

14-01-000001 民間路線バス運行区間延長事業				担当組織 総合政策課 企画グループ				事業費 2,560,000円										
予算科目 会計 一般会計 款 2総務費				項 1総務管理費 目 10交通政策費														
事業概要	手段と実績 ・契約に基づく補助金の支払いと運行実績の確認 補助金交付 水上駅～湯ノ小屋線 1,170千円 水上駅～宝川線 1,390千円	対象			意図 ・朝晩の運行便の始発及び終点を延長し利便性の向上を図る。													
		運行回数(宝川発)	平成25年度	平成26年度		単位	利用者(宝川発)	平成25年度	平成26年度	単位								
		365	365	便		212	239	人										
評価結果と今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・休止等 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持			<input checked="" type="checkbox"/> 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し			<input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携			<input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更			<input checked="" type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化			コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>		
	全体総括	朝・ター便の区間延長であるためこの事業を廃止しても路線が廃止されるわけではない。しかしながらこの便を利用している小・中・高校生もいる。今後も利用者の動向を見ながら進めなければならないが、町が補助しなくても事業者が区間延長を継続してくれることが理想である。			今後の改革改善案 利用者が増加すれば補助金額は減少するので利用者増を目指したい。廃止した区間を補助で復活した経緯を考慮すると難しいであろうが、将来的に補助を廃止しても事業者が継続してもらいたい。			課題とその解決策 利用者を増やすために利用しやすい環境を整える必要があるため、バスカード事業を継続していく。また観光客にも利用しやすいように、事業者と協力して周遊チケットなどの販売を検討していく。										

14-01-000002 自家用有償バス(猿ヶ京法師線)運行事業				担当組織 新治支所 庶務・住民サービスグループ				事業費 5,290,583円										
予算科目 会計 一般会計 款 2総務費				項 1総務管理費 目 16自家用有償バス運行費														
事業概要	手段と実績 ・バスの維持管理、運転手の確保、乗車券の作成、バス停の整備・管理、路線変更、料金改定、条例変更	対象			意図 ・住民が日常の足として利用できること。・来訪者も利用できること。													
		乗車人数	平成25年度	平成26年度		単位	町民の利用数	平成25年度	平成26年度	単位								
		6,586	7,041	人		116	131	人										
評価結果と今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・休止等 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持			<input checked="" type="checkbox"/> 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し			<input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携			<input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更			<input checked="" type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化			コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>		
	全体総括	・事業の目的からすれば存続することが必要と思われるが、地域住民の利用は減少の一途を辿っており、自家用有償バス運行目的である「地域住民の日常の足を確保する」という意味合いはほとんど薄れていると思われる。・地域住民の要望や、H26年度の路線変更により町内利用者の向上を目指す。平成29年度末までに町内利用率が向上しなければ廃止もやむを得ないと思われる。			今後の改革改善案 1. 町内利用率の向上。			課題とその解決策 1. 冬期間のみ赤沢スキー場内への乗り入れるよう、路線変更を実施し、町内利用者数の向上を目指す。										

14-02-000001 地域公共交通会議運営事業				担当組織 総合政策課 企画グループ				事業費 2,052円										
予算科目 会計 一般会計 款 2総務費				項 1総務管理費 目 10交通政策費														
事業概要	手段と実績 6/9 地域公共交通会議の開催※町営バス登録更新と冬期間の赤沢スキー場経路による路線変更を審議し承認される。	対象			意図 路線近隣住民が町営バスを利用し移動する													
		地域公共交通会議開催数	平成25年度	平成26年度		単位	町営バスの乗車数	平成25年度	平成26年度	単位								
		0	1	回		6,586	7,041	人										
評価結果と今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・休止等 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持			<input checked="" type="checkbox"/> 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し			<input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携			<input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更			<input checked="" type="checkbox"/> 公平性 <input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化			コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>		
	全体総括	現在は、定例的に協議が必要なものは町営バス(法師線)だけである。町営バスの運行等を変更する場合には、この会議を経ないと運輸局の了解が得られないため重要な会議である。今後、若年者の減少及び高齢化に伴う公共交通の重要性が高まること予測される。地域の需要に即した乗合運送サービス等の提供を検討する場合には、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく法定協議会の設置と、町全体のインフラ整備等と公共交通等について検討することとなる。			今後の改革改善案 特になし			課題とその解決策 特になし										

14 公共交通の利便性の向上

14-02-000002 路線バス回数乗車券購入費助成事業				担当組織 総合政策課 企画グループ				事業費		15,066,960円				
予算科目 会計 一般会計 款 2総務費				項 1総務管理費		目 10交通政策費								
事業概要	手段と実績 ・バスカードを作成した。5,000枚・町民福祉課・各支所の3箇所で販売した。・利用状況調査を実施した。	対象 町民			意図 路線バスを利用しやすくなる									
		バスカード作成枚数	平成25年度	平成26年度	単位	人口(10月1日現在)	平成25年度	平成26年度	単位	路線バス利用者	平成25年度	平成26年度	単位	
		4,000	5,000	枚	20,035	19,739	人	245	251	千人				
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等 <input type="radio"/> 目的妥当性 <input checked="" type="radio"/> 有効性 <input checked="" type="radio"/> 効率性 <input checked="" type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/>		<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input checked="" type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下	
	全体総括 平成24年度(今年度)から開始したバス利用の利便性を向上し利用者減を食い止めるための事業。町内のバス路線は2路線有り特に猿ヶ京線の利用者減が著しい。これは通学にバスを利用している学生が減少していることと比例しており、また駅までの送迎や通勤に家用車を利用している人もいることから、運賃が通学定期並で、利用した時だけの支払でよいバスカードの利用につながっており、バスの利用促進となっている。		今後の改革改善案 バスカードの販売については広報と回覧で周知を行ってきた結果、利用者増につながった。H26.3から後開発の最終便を増便することができた。利用者が減少すれば最終便も再び廃止になる可能性は強い。今後も広報などを通じて利用を呼びかけていく。この事業は事業者の協力なしには継続できないので今後も事業者と協力しながら継続していく。		課題とその解決策 利用者がバスカードを購入する際に、本庁もしくは両支所の窓口まで来なければならない。バス内での購入ができれば負担軽減になると思われるが、町民であることの確認をしなければならないこと、事業者としてバス運転手の負担増は避けたいとの意見もあることから、現在のところ車内販売は行っていない。									

14-02-000004 後閑駅前月極町営駐車場管理運営事業				担当組織 総合政策課 財政・管財グループ				事業費		9,746円				
予算科目 会計 一般会計 款 2総務費				項 1総務管理費		目 5財産管理費								
事業概要	手段と実績 申込受付、使用許可書の発行、金融機関への口座振替依頼、現金払者に対して納入通知書の発行、契約車両変更及び解約の手続き、振替不能時には納入通知書の発行などを行う。4/101台増設、5/10除草作業、2/16除雪作業	対象 後閑駅前月極町営駐車場			意図 貸し出し可能な状態にする。									
		駐車契約台数	平成25年度	平成26年度	単位	駐車可能台数	平成25年度	平成26年度	単位	駐車台数/駐車可能台数	平成25年度	平成26年度	単位	
		48	48	台	48	48	台	100	100	%				
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等 <input type="radio"/> 目的妥当性 <input checked="" type="radio"/> 有効性 <input checked="" type="radio"/> 効率性 <input checked="" type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/>		<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下	
	全体総括 民間委託の導入など可能ではあるが、この駐車場については普通財産として管理しており、条例などの定めはなく、費用を最低限に抑え事業を行っているため現状維持が可能である。また、職員減少に伴い、他課との事業の統合については、検討する余地があると思われる。しかしながら、都市計画による駅前開発等を考慮すると現状維持にならざるを得ない。		今後の改革改善案 現状維持または事業連携により総合政策課で集中管理を行い、できるところから委託を導入したい。		課題とその解決策 特になし。									

14-02-000005 後閑駅前駐車場管理運営事業				担当組織 総合政策課 企画グループ				事業費		479,538円				
予算科目 会計 一般会計 款 8土木費				項 4都市計画費		目 1都市計画総務費								
事業概要	手段と実績 商工会へ管理業務委託した。	対象 利用者・後閑駅前駐車場			意図 後閑駅前駐車場利用がトラブルなく利用できる									
		利用料金	平成25年度	平成26年度	単位	駐車場利用台数	平成25年度	平成26年度	単位	トラブル発生件数	平成25年度	平成26年度	単位	
		2,657,700	2,495,600	円	12,350	11,697	台/年	0	2	件				
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等 <input type="radio"/> 目的妥当性 <input checked="" type="radio"/> 有効性 <input checked="" type="radio"/> 効率性 <input checked="" type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/>		<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下	
	全体総括 平成26年度より、総合政策課管理の後閑駅前駐車場と一体に管理することになった。		今後の改革改善案 総合政策課管理の後閑駅前駐車場と一体に管理することにより、成果向上、コスト削減が見込まれるため、平成26年度より総合政策課管理となった。		課題とその解決策 なし									

14 公共交通の利便性の向上

14-02-000006 鹿野沢町営駐輪場管理運営事業				担当組織 水上支所 庶務・住民サービスグループ				事業費 240,000円			
予算科目 会計 一般会計 款 2総務費				項 1総務管理費		目 5財産管理費					
事業概要	手段と実績 駐輪場使用申請の受理、許可証の交付、使用料の徴収事務、駐輪場の管理及び清掃。	対象			水上駅利用の町民			意図			
		利用者数	平成25年度	平成26年度	単位	水上駅を利用する人	平成25年度	平成26年度	単位	自転車の違法駐輪防止	
		6	6	人	150	150	人	撤去自転車数	平成25年度	平成26年度	単位
								0	0	台	
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等 <input checked="" type="checkbox"/> 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 公平性 <input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> 規模縮減 <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input checked="" type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 意図の見直し <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下		現在使用している駐輪場を廃止し、町有地に簡易な駐輪場を設置する場合、現借地の所有者との土地の返還に係る交渉。		
	全体総括 駐輪場の利用は学生が主体であるが、現状は保護者による車での送迎が増えてきている。しかし、一部の利用者もいるため廃止するわけにはいかない。現在の駐輪場は借地でありコストがかかるため、町有地を活用し無料で利用できる簡易な駐輪場を設置することで、将来にわたりコスト削減につながる。		今後の改革改善案 駐輪場の利用は学生が主体であるが、現状は保護者による車での送迎が増えてきている。しかし、一部の利用者もいるため廃止するわけにはいかない。現在の駐輪場は借地でありコストがかかるため、町有地を活用し無料で利用できる簡易な駐輪場を設置することで、将来にわたりコスト削減につながる。		課題とその解決策						

14-02-000007 上毛高原駅前広場整備事業				担当組織 地域整備課 企画グループ				事業費 35,391,600円				
予算科目 会計 一般会計 款 2総務費				項 1総務管理費		目 10交通政策費						
事業概要	手段と実績 上毛高原駅前駐輪場調査委託 一式 // 整備工事 舗装工A=1,546.7㎡ 境界ブック工 L=35.1m 排水路工 L=50.0m 等 // 付帯工事 舗装工A=950.3㎡ 区画線工 一式 電気設備工 一式 等	対象			駐車場・駐車場利用者			意図				
		駐車場整備	平成25年度	平成26年度	単位	駐車場	平成25年度	平成26年度	単位	駐車台数	平成25年度	平成26年度
				1 式				1 カ所	35	63	台数	
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等 <input checked="" type="checkbox"/> 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 公平性 <input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> 規模縮減 <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input checked="" type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 意図の見直し <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下		特になし。			
	全体総括 整備したことで、一般開放でき、誰でも使える駐車場となった。今後は、上毛高原駅前駐車場管理運営事業にて適切に対応することになる。		今後の改革改善案 特になし。		課題とその解決策							

14-02-000008 後閑駅構内公衆トイレ維持管理事業				担当組織 総合政策課 企画グループ				事業費 540,538円				
予算科目 会計 一般会計 款 8土木費				項 4都市計画費		目 1都市計画総務費						
事業概要	手段と実績 商工会へ管理業務委託した。	対象			後閑駅利用者・トイレ			意図				
		委託料	平成25年度	平成26年度	単位	後閑駅乗客数	平成25年度	平成26年度	単位	トラブル発生件数	平成25年度	平成26年度
		350,000	350,000	円	930	861	人/日	0	0	件		
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等 <input checked="" type="checkbox"/> 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 公平性 <input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> 規模縮減 <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input checked="" type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 意図の見直し <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		コスト 削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下		なし			
	全体総括 平成26年度より、総合政策課管理の後閑駅駐車場と一体に管理することになった。		今後の改革改善案 総合政策課管理の後閑駅駐車場と一体に管理することにより、成果向上、コスト削減が見込まれるため、平成26年度より総合政策課管理となった。		課題とその解決策							

14 公共交通の利便性の向上

14-02-000009 上毛高原駅前駐車場管理運営事業				担当組織 総合政策課 企画グループ				事業費		332,060円						
予算科目				会計 一般会計		款 2総務費		項 1総務管理費		目 10交通政策費						
事業概要	手段と実績 ・駐車場料金回収業務と駐車場管理を観光協会へ委託した。・苦情処理の対応を行った。	対象		利用者・上毛高原駅前駐車場				意図 利用者が快適に駐車場を使えるようにする。								
		委託料	平成25年度	平成26年度	単位	利用台数(出庫台数)	平成25年度	平成26年度	単位	苦情件数	平成25年度	平成26年度	単位			
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等 <input type="radio"/> 目的妥当性 <input checked="" type="radio"/> 有効性 <input checked="" type="radio"/> 効率性 <input checked="" type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/>		<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		成果 向上 維持 低下		コスト 削減 維持 増加 × × ×	
	全体総括	この事務事業は、平成26年度から開始されており、状況を見ながら適切に対応していきたい。駐車場整備工事の実施にあたり、一時利用駐車場に終日駐車している利用者に対する周知期間が短かった。そのため、東京への通勤のため利用している方から苦情が寄せられた。精算機と手数料額が異なるケースがあった。				今後の改革改善案	しばらく様子を見ながら対応していく。				課題とその解決策	送迎車の路駐が完全には無くならない状況である。今後、様子を見たい。				

14-02-000010 路線バス案内パンフレット作成事業				担当組織 総合政策課 企画グループ				事業費		129,600円						
予算科目				会計 一般会計		款 2総務費		項 1総務管理費		目 10交通政策費						
事業概要	手段と実績 路線バスの利用促進のための停留所ガイドマップの作成。	対象		町民及び観光客				意図 利用者が利用しやすくなる								
		ガイドマップの印刷枚数	平成25年度	平成26年度	単位	人口(4月1日住民基本台帳)	平成25年度	平成26年度	単位	路線バス利用者	平成25年度	平成26年度	単位			
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等 <input type="radio"/> 目的妥当性 <input checked="" type="radio"/> 有効性 <input checked="" type="radio"/> 効率性 <input checked="" type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/>		<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input checked="" type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		成果 向上 維持 低下		コスト 削減 維持 増加 × × ×	
	全体総括	バス停留所の改修とリンクした事業である。バス停のガイドマップは今まで作成したことはなく、初めてバスを利用する人はバス路線がどこを走っているかわからないため、目的地に行く手段としてバスが選択されないこともある。バス路線とバス停を案内することで、バス利用を促進することができればバス路線の維持確保につながる。				今後の改革改善案	この事業により、バス路線とバス停の案内はできた。バス事業者が定額周遊チケットを発売したので、ガイドマップとセットで活用することにより、よりバス路線の利用促進につながるかと考える。				課題とその解決策	さらなるバス路線の利用促進には、町商工会や観光協会と協力し、バス路線の利用者への優待サービスなどを行うことにより、さらなる利用促進につながるかと考える。				